

平成28年度の
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと
当面の課題について

平成28年7月22日

1. 地域別生乳生産量の動向

【生乳生産量予測の前提】

・北海道及び都府県の予測値は、平成 28 年 5 月までの生乳生産量データに基づき、気温や乳牛頭数等を説明変数とした予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。なお、平成 28 年度の気温は、平年並で設定。

表 1-1 : 平成 28 年度の地域別生乳生産量 (見通し)

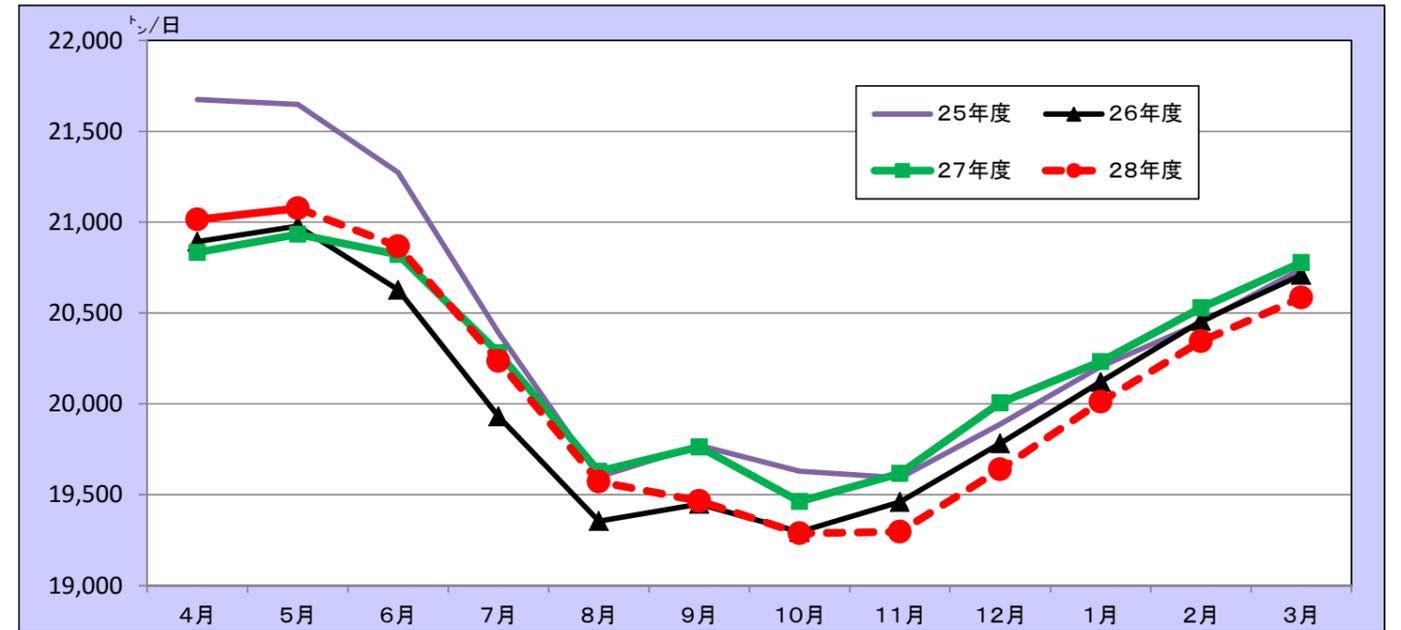
	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4 月	630	100.9%	328	103.1%	302	98.6%
5 月	653	100.7%	344	102.7%	310	98.5%
6 月	626	100.2%	337	102.4%	289	97.7%
7 月	627	99.8%	343	102.3%	285	96.9%
8 月	607	99.7%	333	102.3%	274	96.7%
9 月	584	98.5%	319	100.9%	265	95.7%
10 月	598	99.1%	324	101.3%	274	96.6%
11 月	579	98.4%	312	100.2%	267	96.3%
12 月	609	98.2%	327	99.7%	281	96.4%
1 月	620	98.9%	332	100.6%	288	97.1%
2 月	570	95.7%	303	96.8%	267	94.4%
3 月	638	99.1%	337	100.2%	302	97.8%
第 1 四半期	1,910	100.6%	1,009	102.7%	901	98.3%
第 2 四半期	1,818	99.3%	995	101.9%	823	96.4%
第 3 四半期	1,786	98.5%	963	100.4%	822	96.4%
第 4 四半期	1,828	97.9%	972	99.3%	856	96.5%
上期	3,728	100.0%	2,004	102.3%	1,724	97.4%
下期	3,614	98.2%	1,935	99.8%	1,678	96.5%
年度計	7,341	99.1%	3,939	101.1%	3,403	96.9%
閏年修正後		99.4%		101.4%		97.2%

※表は、白枠部分が実績、着色部分が予測 (平成 28 年 6 月以降)。以下、全て同様。

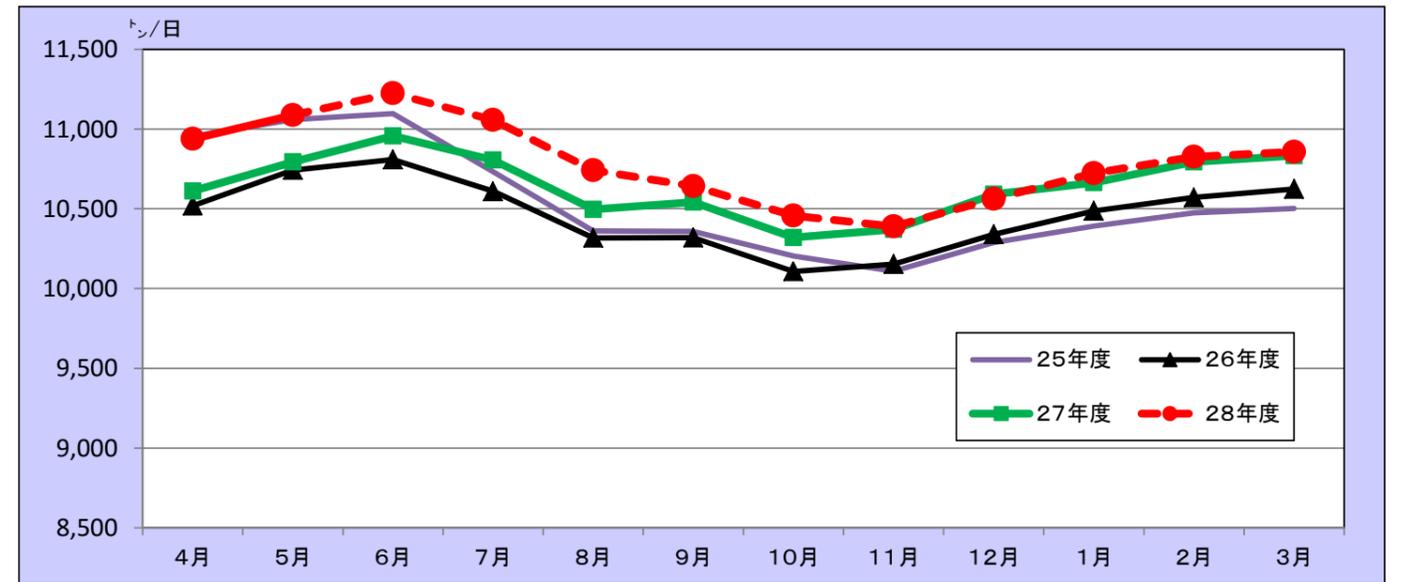
【生乳生産量の見通し】

28 年度の生乳生産量は、北海道では、生産の主力となる 2~4 歳の乳牛頭数が前年を超えることから、前年度を上回る (3,939 千トンの前年比 101.1%) もの、都府県では前年度を下回り (3,403 千トンの前年比 96.9%)、その結果、全国の生乳生産量は前年度をやや下回る (7,341 千トンの前年比 99.1%) 見通しである。

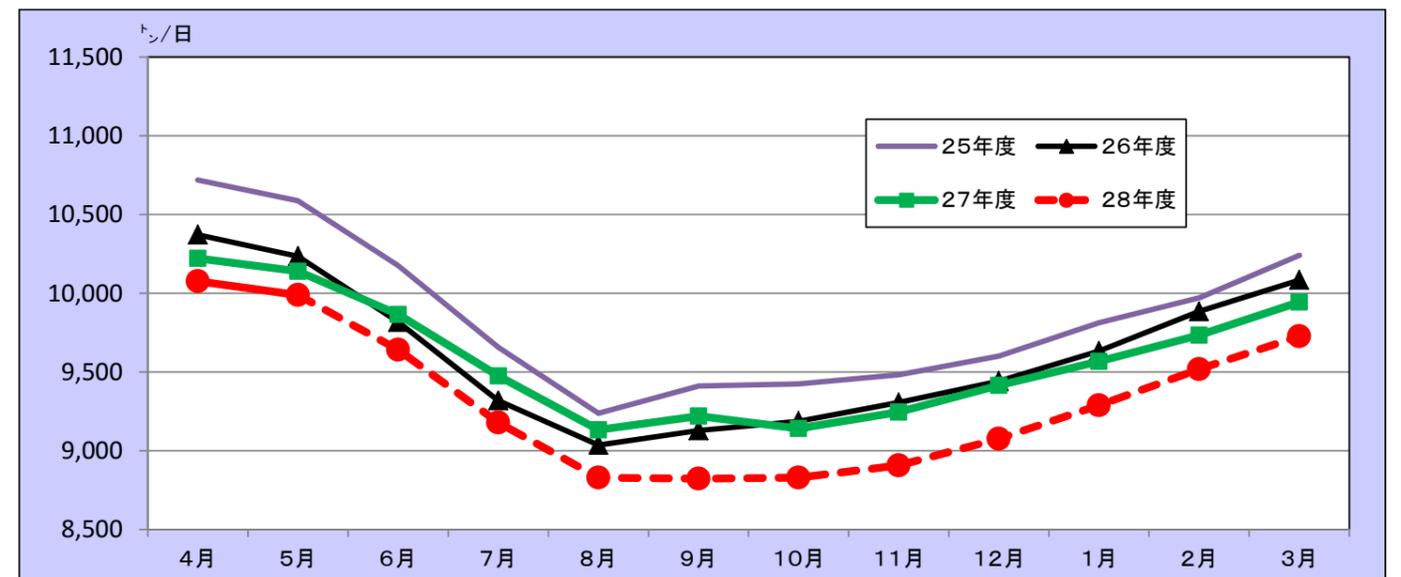
グラフ 1-1 : 全国の生産量 (日均量)



グラフ 1-2 : 北海道の生産量 (日均量)



グラフ 1-3 : 都府県の生産量 (日均量)



2. 牛乳等生産量の動向

【牛乳等生産量予測の前提】

・各々の予測値は、平成 28 年 5 月までの生産量データに基づき、気温や平日日数等を説明変数とした予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。なお、平成 28 年度の気温は、平年並で設定。

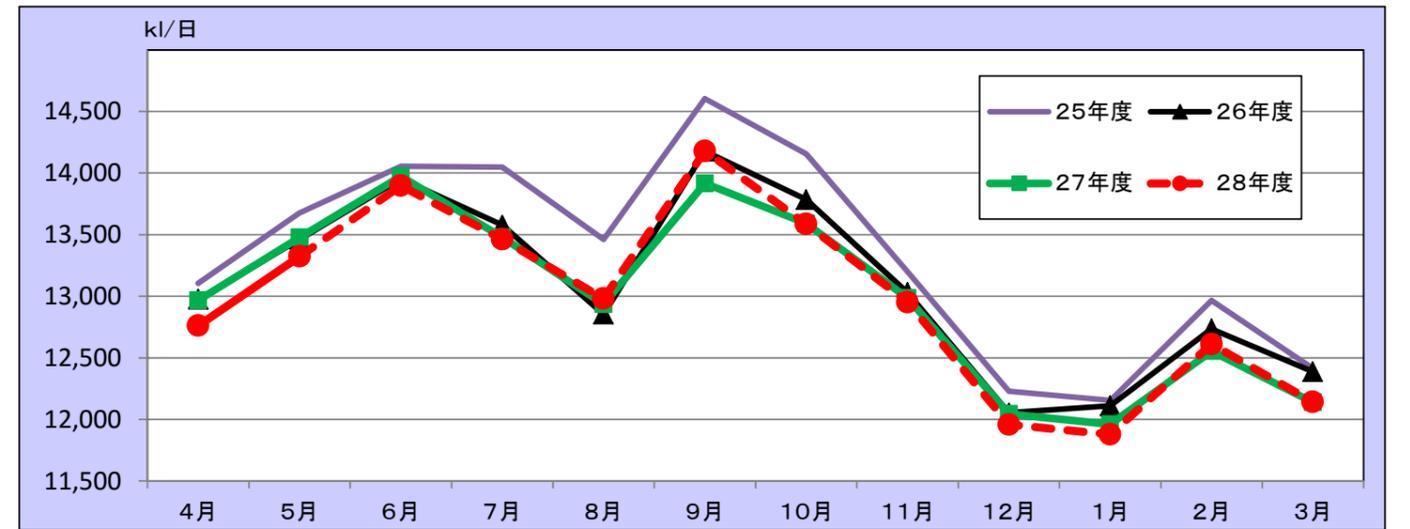
表 2-1：平成 28 年度の牛乳等生産量（見通し）

	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4 月	383	98.4%	245	99.9%	9	104.1%	27	97.0%	102	95.0%	97	108.6%
5 月	413	98.9%	266	102.0%	9	106.1%	29	94.0%	109	92.6%	99	107.3%
6 月	417	99.4%	268	100.8%	8	105.2%	29	97.1%	112	96.5%	99	105.6%
7 月	417	99.9%	258	101.1%	9	109.7%	31	97.5%	120	97.3%	98	105.8%
8 月	402	100.3%	241	100.7%	9	109.6%	31	98.2%	122	99.6%	94	108.8%
9 月	425	101.9%	267	102.2%	9	107.2%	30	99.2%	119	101.5%	94	106.3%
10 月	421	100.0%	267	99.9%	9	104.9%	30	98.0%	116	100.2%	94	101.5%
11 月	389	99.7%	252	99.9%	9	95.4%	27	97.8%	101	100.3%	88	103.1%
12 月	371	99.3%	239	99.0%	9	91.5%	26	97.4%	96	101.5%	85	102.1%
1 月	368	99.3%	238	98.9%	8	91.4%	27	97.7%	95	101.7%	90	98.3%
2 月	353	97.0%	232	95.9%	8	88.2%	25	95.1%	88	101.4%	87	97.9%
3 月	376	100.0%	240	99.2%	8	93.7%	27	98.7%	101	103.1%	98	102.3%
第 1 四半期	1,213	98.9%	779	100.9%	26	105.1%	86	96.0%	322	94.7%	295	107.1%
第 2 四半期	1,245	100.7%	765	101.4%	27	108.8%	93	98.3%	360	99.4%	287	107.0%
第 3 四半期	1,180	99.7%	758	99.6%	27	96.9%	83	97.8%	313	100.6%	268	102.2%
第 4 四半期	1,098	98.8%	711	98.0%	24	91.1%	79	97.2%	284	102.1%	275	99.5%
上期	2,458	99.8%	1,544	101.1%	52	107.0%	178	97.2%	683	97.1%	582	107.1%
下期	2,278	99.2%	1,469	98.8%	51	94.1%	161	97.5%	597	101.3%	542	100.8%
年度計	4,736	99.5%	3,013	100.0%	103	100.2%	340	97.3%	1,280	99.1%	1,124	104.0%
閏年修正後		99.8%		100.3%		100.5%		97.6%		99.3%		104.2%

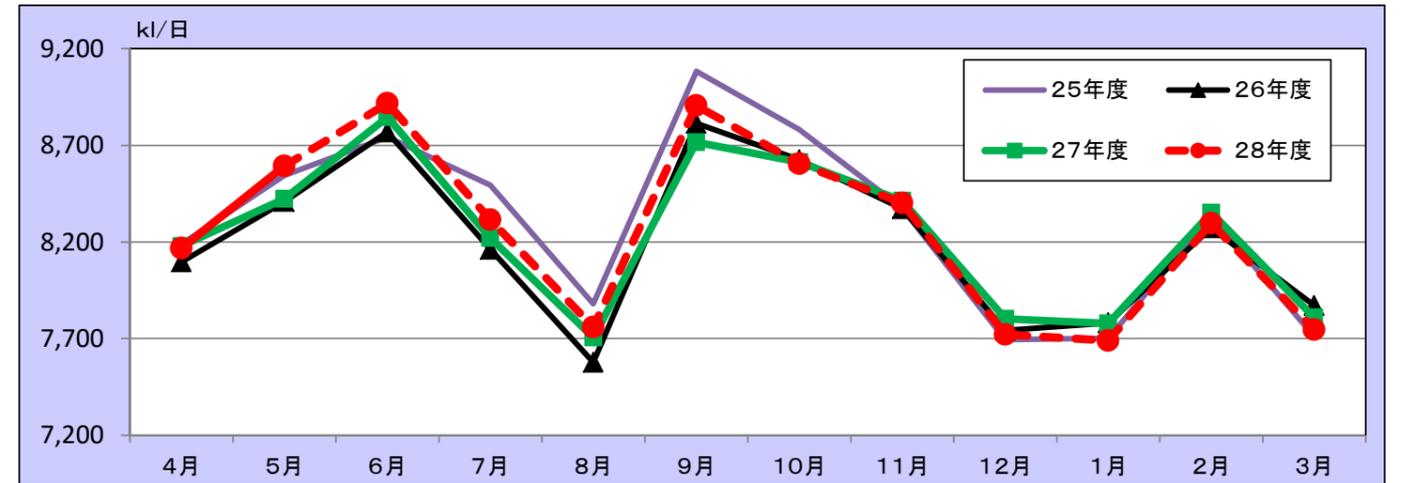
【牛乳等生産量の見通し】

28 年度の牛乳等生産量は、「牛乳」が前年夏季の天候不順に対する反動増も含め比較的堅調に推移すると見込まれ、「牛乳類」は前年度をやや下回る (4,736 千 K1・前年比 99.5%) 見通し。「はっ酵乳」は、市場において機能性等が着実に受け入れられ、引き続き堅調な需要が見込まれることから、前年度を上回る (1,124 千 K1・同 104.0%) 見通しである。

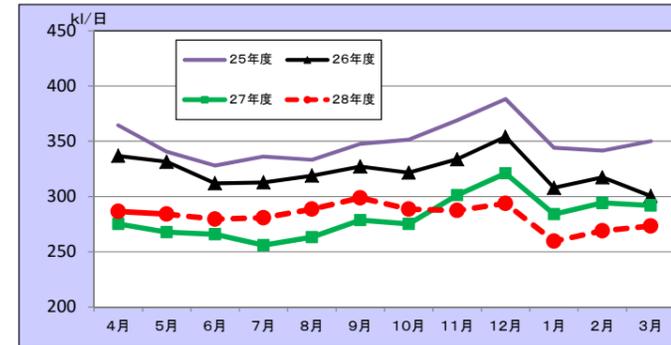
グラフ 2-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



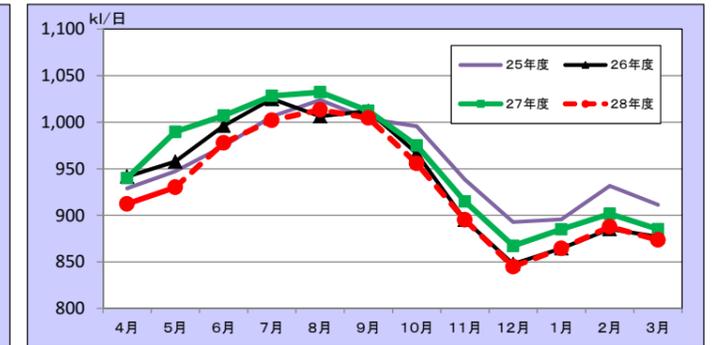
グラフ 2-2：牛乳の生産量（日均量）



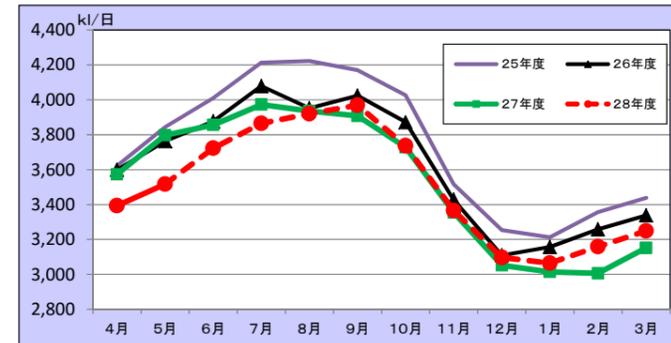
グラフ 2-3：加工乳の生産量（日均量）



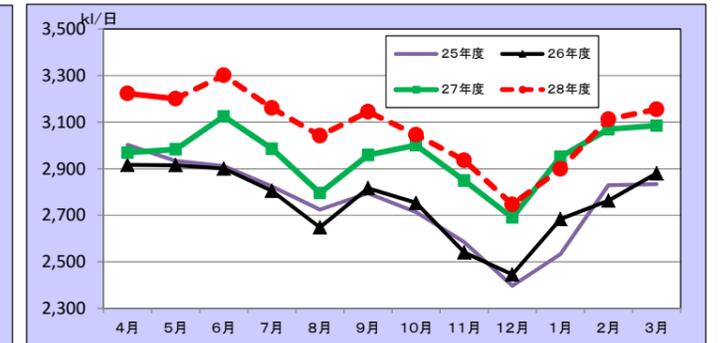
グラフ 2-4：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ 2-5：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ 2-6：はっ酵乳の生産量（日均量）



3. 用途別処理量の動向

【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、生乳使用係数を乗じ算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

表3-1：平成28年度の生乳供給量及び用途別処理量（見通し）

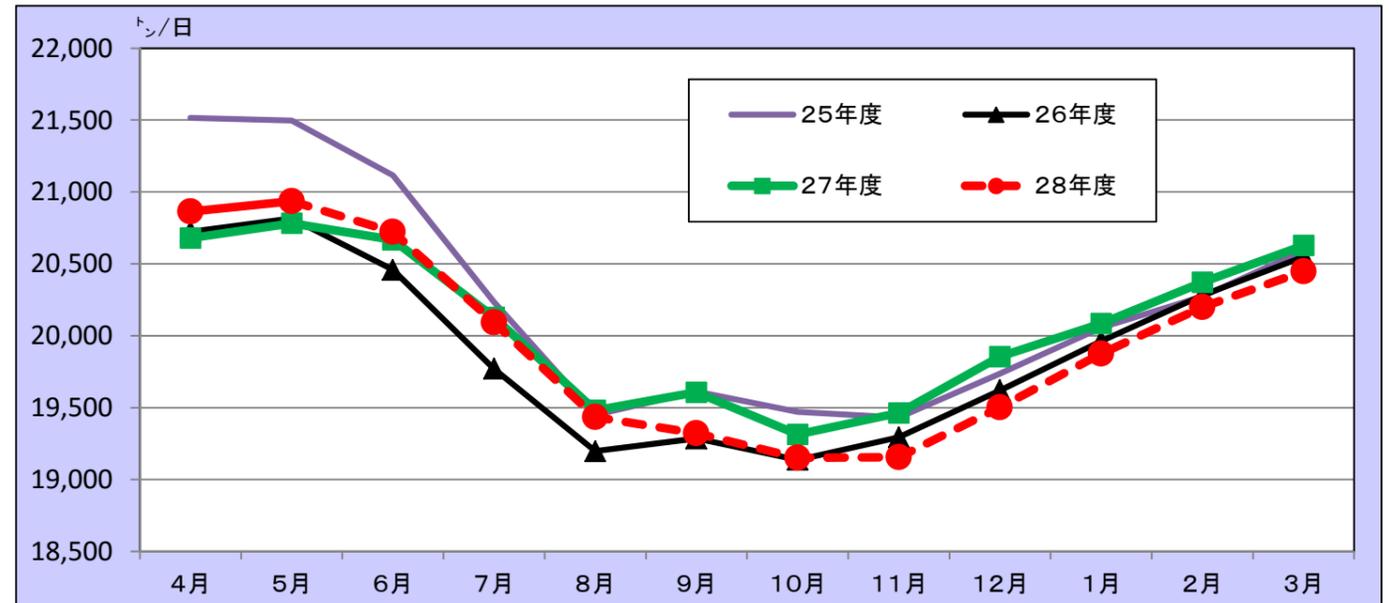
(千トン)

	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	630	100.9%	4	97.0%	626	100.9%	323	100.3%	303	101.6%
5月	653	100.7%	4	92.6%	649	100.7%	350	100.8%	299	100.7%
6月	626	100.2%	4	93.1%	622	100.3%	351	100.5%	271	100.0%
7月	627	99.8%	4	92.6%	623	99.8%	341	100.8%	282	98.7%
8月	607	99.7%	4	92.2%	602	99.8%	325	100.8%	277	98.5%
9月	584	98.5%	4	91.4%	580	98.6%	345	102.1%	235	93.8%
10月	598	99.1%	4	91.8%	594	99.2%	343	99.8%	250	98.2%
11月	579	98.4%	4	91.4%	575	98.4%	328	99.9%	247	96.6%
12月	609	98.2%	4	91.0%	605	98.2%	308	99.1%	296	97.4%
1月	620	98.9%	4	91.6%	616	99.0%	314	98.8%	302	99.1%
2月	570	95.7%	4	89.0%	566	95.7%	302	96.2%	264	95.2%
3月	638	99.1%	4	91.9%	634	99.1%	320	99.5%	314	98.7%
第1四半期	1,910	100.6%	13	94.2%	1,897	100.6%	1,024	100.5%	873	100.8%
第2四半期	1,818	99.3%	13	92.1%	1,805	99.4%	1,011	101.2%	794	97.1%
第3四半期	1,786	98.5%	13	91.4%	1,773	98.6%	980	99.6%	793	97.4%
第4四半期	1,828	97.9%	12	90.8%	1,816	98.0%	935	98.2%	881	97.8%
上期	3,728	100.0%	26	93.2%	3,702	100.0%	2,035	100.9%	1,666	99.0%
下期	3,614	98.2%	25	91.1%	3,589	98.3%	1,915	98.9%	1,674	97.6%
年度計	7,341	99.1%	51	92.1%	7,290	99.2%	3,950	99.9%	3,340	98.3%
閏年修正後		99.4%		92.4%		99.4%		100.2%		98.6%

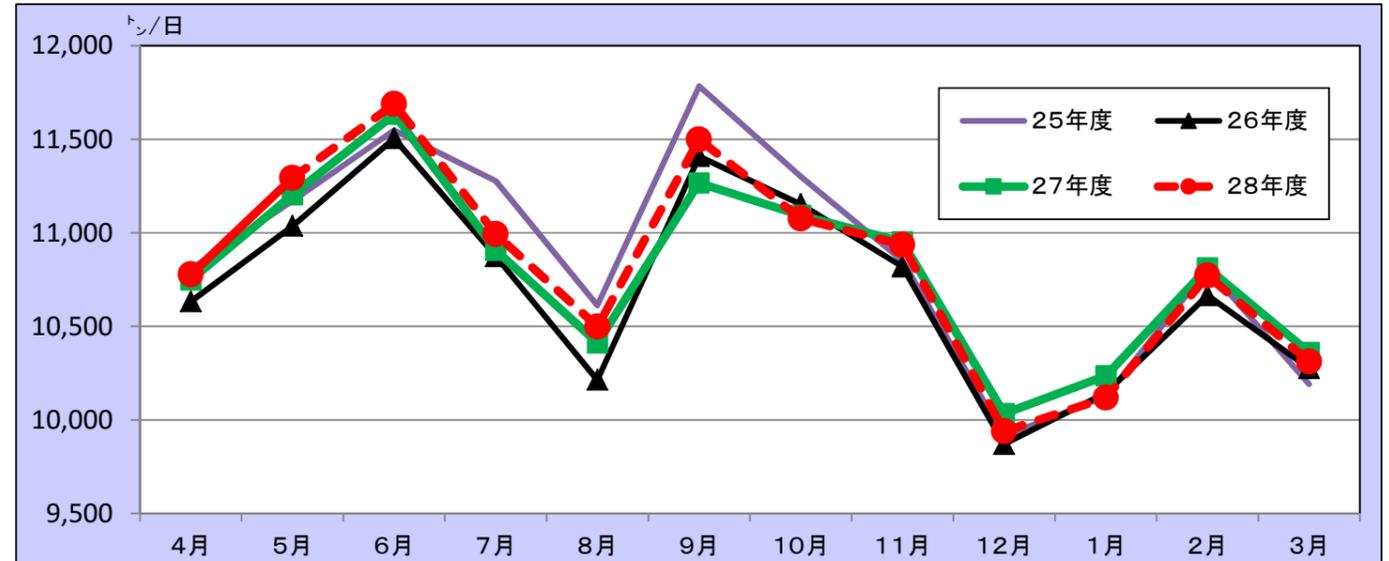
【用途別処理量の見通し】

28年度の用途別処理量は、「生乳供給量」は前年度をやや下回る（7,290千トン・前年比99.2%）見通しに対して、「牛乳等向処理量」はほぼ前年並み（3,950千トン・同99.9%）であることから、その結果、「乳製品向処理量」は年度計では前年度を下回る（3,340千トン・同98.3%）見通しである。

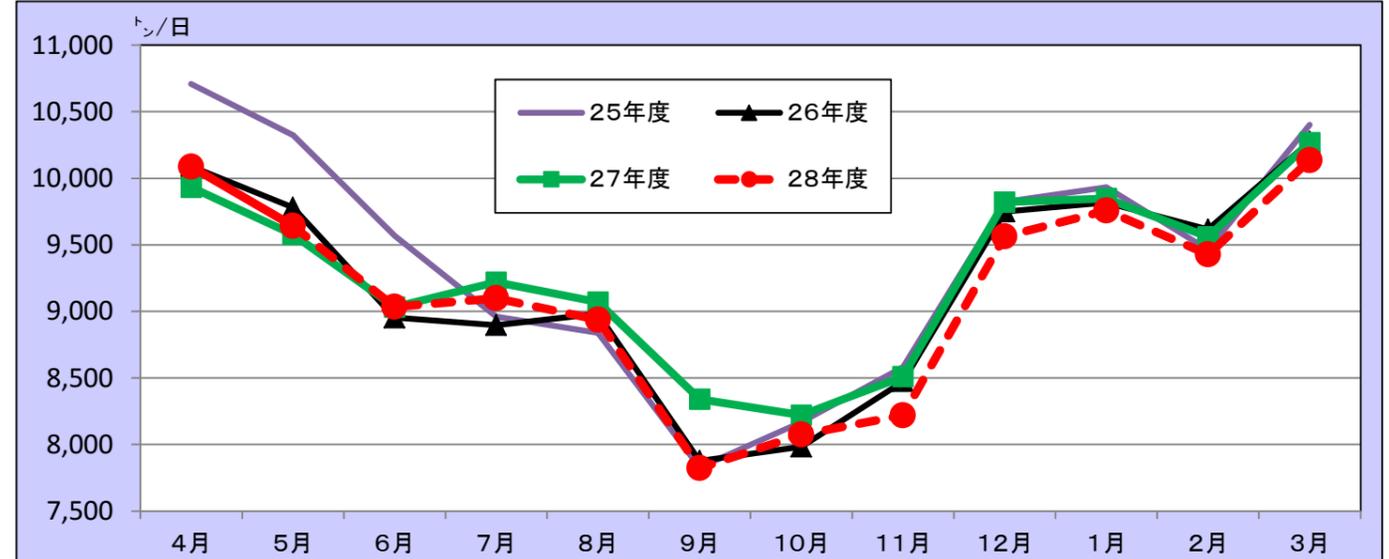
グラフ3-1：生乳供給量（日均量）



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量（日均量）



グラフ3-3：乳製品等向生乳処理量（日均量）



4. 都府県の生乳需給の動向

【都府県生乳需給予測の前提】

- ・「移入量(道外移出量)」は、都府県不足量の補完と、北海道ブランド牛乳製造のための必要乳量等を基本に算出。
- ・「特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)向処理量」は、「過不足(A-B-C)」+「移入量」-「移出量」で算出し、過去5年間の最低数量や直近の需給状況等を加味して算出。

表4-1: 平成28年度の都府県の需給(見通し)

	生乳供給量		牛乳等向処理量		その他乳製品向処理量		過不足 A-B-C	移入量 (道外移出量)		移出量	特定乳製品向処理量	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比		前年比	前年比		前年比	
4月	300	98.6%	276	99.8%	13	95.6%	11	21	110.4%	0	32	97.6%
5月	307	98.5%	301	100.4%	12	95.2%	-6	27	115.9%	0	21	94.1%
6月	287	97.8%	301	99.9%	12	95.8%	-27	38	116.0%	0	12	95.9%
7月	282	96.9%	290	100.3%	14	98.2%	-22	34	120.1%	0	12	74.8%
8月	271	96.7%	275	100.3%	15	98.2%	-18	36	132.1%	0	18	93.5%
9月	262	95.7%	294	101.4%	13	98.1%	-45	52	139.5%	0	7	87.9%
10月	271	96.6%	293	99.2%	14	98.1%	-35	44	118.9%	0	9	100.0%
11月	265	96.4%	280	99.2%	14	98.1%	-28	40	122.8%	0	12	100.0%
12月	279	96.4%	262	98.3%	15	98.0%	2	24	99.6%	0	27	83.4%
1月	286	97.1%	268	98.3%	13	98.1%	5	21	98.3%	0	25	86.6%
2月	264	94.4%	258	95.7%	12	94.7%	-5	25	114.5%	0	20	100.0%
3月	299	97.8%	271	99.1%	14	98.1%	14	20	98.8%	0	34	89.4%
第1四半期	894	98.3%	878	100.0%	37	95.5%	-22	86	114.6%	0	64	96.1%
第2四半期	816	96.5%	858	100.7%	42	98.2%	-84	121	131.4%	0	37	85.5%
第3四半期	815	96.5%	834	98.9%	43	98.1%	-61	108	115.2%	0	47	90.0%
第4四半期	849	96.5%	797	97.7%	39	97.1%	14	66	104.1%	0	80	90.9%
上期	1,710	97.4%	1,736	100.4%	79	96.9%	-106	207	123.8%	0	102	91.9%
下期	1,665	96.5%	1,630	98.3%	82	97.6%	-47	174	110.7%	0	127	90.6%
年度計	3,375	97.0%	3,367	99.4%	161	97.3%	-153	382	117.5%	0	229	91.2%

【都府県の生乳需給の見通し】

都府県の生乳需給は、「生乳供給量」は前年度を下回る(3,375千トンの前年比97.0%)見通しの中、「牛乳等向処理量」は前年をやや下回るものの、比較的堅調な需要が見込まれる。

その結果、北海道から都府県への「移入量(道外移出量)」は、前年夏季の天候不順に対する反動増を含め、需要期を中心に前年水準と比較して増加傾向で推移するものと見込まれる。

5. 乳製品需給の動向

【特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)需給予測の前提】

- ・脱脂粉乳・バターの生産量は、特定乳製品向処理見込数量に製造係数(直近の動向等を反映)を乗じて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの出回り量は、平成28年5月までの出回り量データに基づき、代替乳製品の動向等を説明変数とした予測モデル(ARIMAモデル)による推計値を基本に算出。
- ・脱脂粉乳・バターの在庫月数は、前年度の一ヶ月平均消費量を基に算出。

表5-1: 平成27年度の脱脂粉乳の需給(実績)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し C	期末在庫量		推定出回り量		
	A	前年比	B	前年比		D	月数	前年比	A+B+C-D	前年比
第1四半期	46.5	115.6%	33.1	105.8%	5.1	50.4	4.4	128.8%	34.3	96.7%
第2四半期	50.4	128.8%	28.7	115.3%	4.8	48.7	4.3	144.9%	35.3	96.9%
第3四半期	48.7	144.9%	31.4	107.0%	0.2	48.6	4.3	141.5%	31.7	97.4%
第4四半期	48.6	141.5%	37.0	104.4%	0.1	51.5	4.5	110.6%	34.2	105.1%
上期	46.5	115.6%	61.8	110.0%	10.0	48.7	4.3	144.9%	69.6	96.8%
下期	48.7	144.9%	68.4	105.6%	0.3	51.5	4.5	110.6%	65.9	101.2%
年度計	46.5	115.6%	130.2	107.7%	10.3	51.5	4.5	110.6%	135.5	98.9%

※出回り量(実績)は消費量を示すものではなく、乳業者等の在庫量を基に算出される。そのため商社等の輸入落札は出回り量として算出される点に注意。

表5-2: 平成28年度の脱脂粉乳の需給(見通し)

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し C	期末在庫量		推定出回り量		
	A	前年比	B	前年比		D	月数	前年比	A+B+C-D	前年比
第1四半期	51.5	110.6%	33.7	101.9%	4.9	57.0	5.1	113.1%	33.1	96.4%
第2四半期	57.0	113.1%	27.0	94.1%	2.0	48.9	4.3	100.5%	37.1	105.2%
第3四半期	48.9	100.5%	28.9	92.0%		44.7	4.0	92.1%	33.1	104.3%
第4四半期	44.7	92.1%	35.7	96.5%	2.0	49.2	4.4	95.6%	33.2	97.2%
上期	51.5	110.6%	60.7	98.3%	6.9	48.9	4.3	100.5%	70.2	100.9%
下期	48.9	100.5%	64.6	94.4%	2.0	49.2	4.4	95.6%	66.3	100.6%
年度計	51.5	110.6%	125.3	96.3%	8.9	49.2	4.4	95.6%	136.5	100.7%

グラフ5: 脱脂粉乳の推定出回り量及び在庫量(四半期毎)

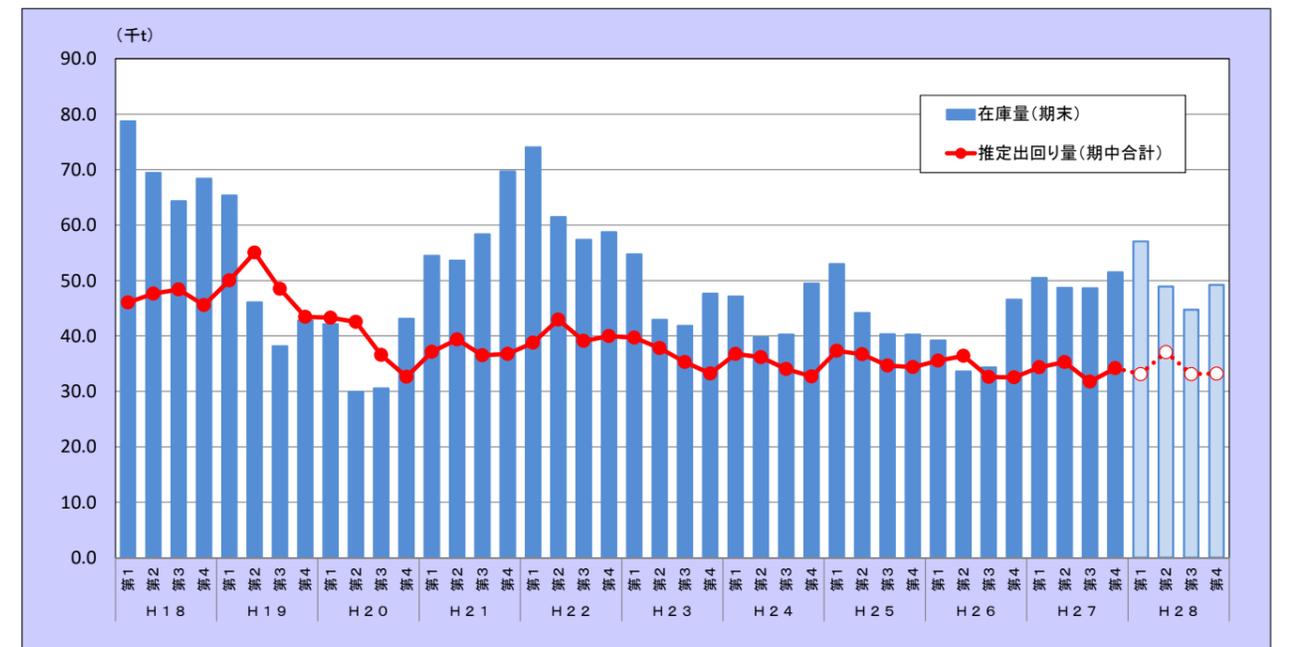


表6-1：平成27度のバターの需給（実績）

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し C	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比		D	月数	前年比	A+B+C-D	前年比
	第1四半期	17.8	103.0%	17.2		101.4%	1.0	19.2	3.1	105.7%
第2四半期	19.2	105.7%	14.7	113.8%	3.9	20.8	3.4	127.1%	17.0	99.2%
第3四半期	20.8	127.1%	14.8	108.3%	7.8	18.8	3.1	123.3%	24.5	114.0%
第4四半期	18.8	123.3%	19.6	108.2%		22.1	3.6	123.6%	16.4	90.9%
上期	17.8	103.0%	31.9	106.8%	5.0	20.8	3.4	127.1%	33.9	98.2%
下期	20.8	127.1%	34.4	108.2%	7.8	22.1	3.6	123.6%	40.9	103.5%
年度計	17.8	103.0%	66.3	107.5%	12.7	22.1	3.6	123.6%	74.8	101.0%

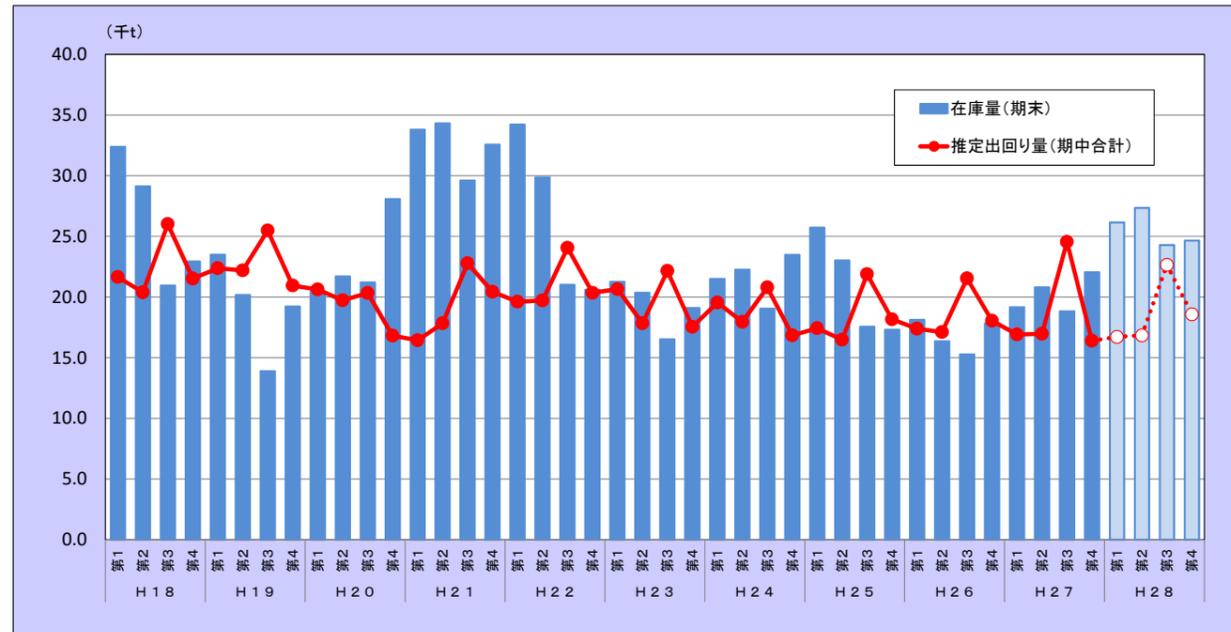
※出回り量（実績）は消費量を示すものではなく、乳業者等の在庫量を基に算出される。そのため商社等の輸入落札は出回り量として算出される点に注意。

表6-2：平成28年度のバターの需給（見通し）

	期首在庫量		生産量		輸入 売渡し C	期末在庫量			推定出回り量	
	A	前年比	B	前年比		D	月数	前年比	A+B+C-D	前年比
	第1四半期	22.1	123.6%	18.0		104.9%	2.8	26.1	4.2	136.5%
第2四半期	26.1	136.5%	13.9	94.3%	4.2	27.3	4.4	131.5%	16.8	99.3%
第3四半期	27.3	131.5%	13.6	92.0%	6.0	24.3	3.9	129.0%	22.7	92.3%
第4四半期	24.3	129.0%	18.9	96.5%		24.6	4.0	111.8%	18.6	113.3%
上期	22.1	123.6%	31.9	100.0%	7.0	27.3	4.4	131.5%	33.6	99.1%
下期	27.3	131.5%	32.5	94.6%	6.0	24.6	4.0	111.8%	41.2	100.7%
年度計	22.1	123.6%	64.4	97.2%	13.0	24.6	4.0	111.8%	74.8	100.0%

注1）出回り量（見込み）は、消費量や販売量を示すものではない。特に第3四半期の出回り量は、前年同期の出回り量（実績）が増加したことに対する反動減である点に注意。

グラフ6：バターの推定出回り量及び在庫量（四半期毎）



【特定乳製品（脱脂粉乳・バター）需給の見通し】

脱脂粉乳については、28年度の生産量は前年度を下回る（125.3千t、前年比96.3%）見通し。輸入売渡しとして、27年度追加輸入残量、28年度カレントアクセス輸入及び追加輸入として8.9千tが売り渡される予定となっているが、28年度末在庫量は49.2千t（前年度末比▲2.3千t）と減少する見込みである。

バターについては、28年度末在庫量は前年度を下回る（64.4千t、同97.2%）見通し。輸入売渡しとして、28年度カレントアクセス輸入及び追加輸入として13.0千tが売り渡される予定となっており、28年度末在庫量は24.6千t（前年度末比+2.5千t）と増加する見込みである。

6. 需給動向を踏まえた当面の課題と対応について

(1) 夏季における生乳生産量維持の取り組み

28年度の生乳生産量は、北海道では前年度を超えるものの、都府県では前年度を下回ると見通され、さらに今夏は平年よりも気温が高くなるとの予報もあることから、酪農生産現場で実施されている暑熱対策の一層の徹底により、夏季における生乳生産量の減少を極力食い止める取り組みが重要である。

(2) 牛乳等の需要期における的確な需給対応

直近の牛乳等需要量は、比較的堅調に推移しており、今後もその傾向が続くと見込まれる。これから牛乳等の最需期を迎えるにあたって、酪農乳業関係者は、弾力的な需給調整を円滑に行うため日々の需給動向を注視し情報の共有を図り、きめ細やかな対応を引き続き図っていく必要がある。

なお、都府県で必要とされる移入量（道外移出量）は、前年の夏季需要期間が特異な冷夏であったため、かなり低水準であったが、今夏についてはその反動増も含めて、必要分を対応する見込みである。

(3) 乳製品安定供給への取り組み

特定乳製品（脱脂粉乳、バター）の28年度生産量は、前年度をやや下回る見込みであるものの、国が本年5月に決定した脱脂粉乳2.0千t、バター6.0千tの追加輸入が、今後、順次売り渡される見通しであることから、本年度の乳製品需給は安定して推移する見通しである。

(4) 生乳生産基盤確保に向けた取り組みの継続

27年度の生乳生産量は10年振り（震災翌年となる24年度除く）に前年を超えたものの、28年度は前年度をやや割り込む見通しであり、今後の牛乳乳製品の安定供給のためには、生乳生産基盤の確保に向けた取り組みを一層強化していくことが重要である。

なお、直近（28年1～3月期）の乳用牛への黒毛和種の交配率は、引き続き高い水準（全国で35.3%）となっており、こうした状況に留意しつつ、現在、酪農現場で実施されている後継牛確保や増産対策等の取り組みが着実な成果へと繋がるよう、酪農乳業関係者一体となった酪農経営への支援が求められる。